

みのひろし後援会だより

編集・発行／みのひろし後援会 会長 岩崎正司（事務所 山県郡北広島町南方 2830）

電話0826-72-2618 きたひろネット050-5812-4661

後援会皆様への

お礼とお願ひ

後援会会長 岩崎 正司

みのひろし後援会の皆様、盛夏の候となりましたが、益々ご健勝のこととお慶び申しあげます。後援会の皆様には、後援会活動に積極的にご協力いただき、誠にありがとうございます。

4月1日、政府の菅義偉官房長官が両腕を高く掲げ、新元号「令和」を発表し、5月から現天皇陛下が即位されました。

箕野博司町長も町政2期目の2年半を経過します。町長は、持ち前の「実直」「町民と共に」を信念に、「新しいまちづくり」民間経営手法を取り入れ、背水の陣で挑戦し、着々と実績を積んでおられます。

我々後援会としても、一層の組織拡充と諸活動の充実を図り、箕野町長が絶対的自信を持って、町政に進んでくれるよう、後援していかねければと考えています。どうかよろしくお願ひいたします。



スポーツを核とする

まちづくり

町長 箕野 博司



本町の平成30年度における入込観光客数の

分布を分析すると、スポーツ・レジャースポーツ（運動公園施設利用、スキー、登山、サイクリング、マラソン、ゴルフ、キャンプなど）を目的に訪町した入込客数が約60万8千人と、全体（174万3千人）の約35%を占めており、スポーツ・レジャースポーツが本町の観光産業の根幹です。

また、本町には、アジア競技大会ソフトテニス競技で金メダルを獲得した、日本代表女子選手を有する「どんぐり北広島ソフトテニスクラブ」の本拠地があり、全国から日本トップクラスの実業団チームや全国の強豪校等（年間約3千人）が合同強化合宿や大会参加を目的に訪れています。

こうした特性を活かして、「ソフトテニス」を核としながら、いろいろな「スポーツ」と神楽などの「魅力ある地域資源」を融合したスポ

ーツツーリズムなどによっても入込観光客の拡大を図れるものと考えます。

2020年には、東京オリンピック・パラリンピックが開催されることから、国内外のスポーツに対する関心が高まると共に、ドミニカ共和国の柔道・陸上の事前合宿も実施しています。そのPR動画がホストタウンサミット2019情報発信「いいね！」賞特別賞に選ばれたのもうれしいニュースでした。

広島県南部には、平和記念公園と原爆ドーム、宮島の厳島神社などのユネスコ世界遺産があることから、海外からも多くの観光客が訪れると見込まれます。年間通じて、そうした観光客の本町への周遊を図り、入込観光客数及び観光消費額の拡大による地域経済の活性化につなげていくことが大切です。

そのために、これから、具体的な計画を検討していきたいと考えています。

支部だより

ことば

大朝支部 井石 孝子

最近、敏感になってきていることは「健康と認知」このことばです。

テレビ番組でも「健康」と「認知症」の文字が出るとメモを取りながら夢中になり見えています。本や新聞でも「健康」「認知」と目にする、一生懸命読んでいます。年を取り、一番私が気にかけていることばかもしれません。

「いつまでも健康でいたい」「認知症になりたくない」と思っているからか、自分なりに努力はしているつもりです。朝のラジオ体操から始まり、野菜作り、ミニトマトの出荷もしています。元気に働いています。ハウスに顔を出すのが私の日課で、楽しみでもありません。ボケないために、指先を動かす。大正琴からパッチ手芸とか自分なりに努力はしているつもりです。そのことも大事かもしれませんけど……

一番大事なのは、心からの「やさしいことば」ではないでしょうか。「やさしいことば」こそ、かけてもかけられても倅せになれる

と思います。

これからも、お年寄りから子どもまでやさしく見守っていただき、箕野町長の活躍を期待しております。

旧豊平町に思うこと

豊平出身 菊本 英二

中学校卒業後、広島市内の高校に進学した15歳の春に旧豊平町を後にして早や53年になる。

その頃の人口が約5千人であったが、その後周辺町と合併したため現在の旧町の人口は不明であるものの、確実に減少し高齢化しているものと思われる。

私が育った家は解体し跡地が残るのみとなっており、子どもの頃にお世話になった方の多くは、今はもうおられない。

私は、現在仕事をリタイアしているが、故郷よりはるかに長い時間を過ごした広島市内で、趣味や地域活動にいそしんでいる毎日である。それでも生まれ育った故郷は懐かしく、折に触れ訪れる。

私の中学時代の同級生には、旧町に住み続け、あるいはリタイア後にリターンし、または広島市内

等に居住しながらも、田畑を守るためや父母の介護で度々帰省し、旧町の発展に寄与している者が沢山いる。毎年そんな仲間とお盆休みにどんぐり村で旧交を温めているところである。

日本が人口減少と高齢化という問題に直面しており、北広島町もその例外ではない。旧豊平町の出身者である私は、北広島町の発展を願いながらも、やはり旧町のことが気になる。

帰省して思うことは、結構見どころが多いことである。どんぐり村、龍頭の駒ヶ滝、吉川元春居館跡、神楽、美しい自然……そして、欠かせないのが「そば」である。あの高橋名人が旧豊平町に移り住んで、多くの弟子を育て、季節になると畑一面のそばの花も情緒があり、旧町が「そばの郷」として定着したことは本当に嬉しいことである。

旧町内をドライブすると、隠れた家的な山小屋風のレストラン等も結構あって、思わぬ発見をしているところである。

日本のあちこちで、限界集落という問題を抱えている中、北広島町が、そして旧豊平町がそうならないように願うばかりである。

北広島町の発展を祈念して寄稿とします。

サツキマスの聖地へ

芸北支部 片桐 義洋

芸北地域にある

聖湖は、樽床ダムが造られたことによる人造湖で、入

江・島・岬、また変化のある湖岸、周辺には西中国山地の美しい山々が広がる湖です。そこには一年を通して、清く冷たい水が流れ込み、多くの生物が生息しており、今でも見ることが出来ます。

近年では、釣りを楽しまれる方も多くなってきたように感じます。聖湖で釣りをされる多くの方々の狙いは『サツキマス』で、サツキマスは、アマゴの降海型のマスで、海の代わりに聖湖で、体長30〜50cmにもなる大型のマスなる魚です。

芸北の聖湖で育つサツキマスを増やそうと、自然史研究会では、観察や保護が行われ、漁協では稚魚

放流や発眼卵放流など、各団体の地道な取り組みにより、近年では、多くのサツキマスを見ることができるようになって、嬉しい限りです。



サツキマス



聖湖

今年4月には、釣り雑誌の一面特集に取り上げられました。今後、もサツキマスの保護増殖に、より一層力を入れ、皆さんの協力も得ながら、芸北の自然を楽しみたいと思います。

終の住処

石井谷という所 八重東支部 今知 毅

石井谷集落の令和元年6月の住民記録は、戸数90戸、男113人、女121人、計234人、一戸当たり2・6人。高齢化率39%、少子高齢化の先細り、行く末は如何に。行政の手腕に期待いたしましたよう。

1601年の慶長検地にみられる石井谷村は、冠川から分岐して、石井谷に通じる石井谷川の流域に開かれた耕地を持つ村落で、村高は522石。面積は、67町4反余り。百姓家153戸。人口515人、牛馬58頭という中頃の村である。小名は、けんの木、助ひら、よもぎ原。ひな原、中せんどう、こつかけ、きし元、太郎丸、内方谷、なかやす。《千代田町史通史編より》

天保初期(1830年頃)豪雨で、大平山の下層が地滑りして、集落の約半分が埋もれた。

明治7年学制頒布により、浄専

坊の一部を賃借し、「鳳龍舎」を開設。明治9年、「石井谷学校」となる。

明治12年、第一回県議会議員選挙で山県管内定員3名の内、石井谷村より小林重次郎が選出される。

明治21年の町村制施行で、寺原村、今田村、後有田村、有間村、古保利村、春木村、有田村、石井谷村の八村が合併し、八重村となる。石井谷村人口は、102戸、517人。

昭和29年、八重町、壬生町、本地村、南方村、川迫村が合併して、千代田町となる。昭和58年中国縦貫道が、平成3年浜田道が全線開通し、陰陽の要所となっている。

北広島町長箕野博司さん、期待しております。

里山整備で

ゆとりの空間づくり

南方支部 沖野 邦夫



私が里山に関心を持ち、1983年(昭和58年)から整備を始めて、今年で36年目になります。当時

は営業で販売関係の仕事をしており、片道1時間以上かけて通勤し、早朝から深夜まで働いて

いました。毎日がとても忙しく、ストレスも多々あり、仕事中心の生活になりかけていた時に、「何か楽しみながら没頭できることはないだろうか」と考え始めました。

私は子どもの頃から工作で物をつくることや、子どもの時から遊びと言えば山や

川・田畑という環境だったこともあり自然の中で過ごすことが好きでしたので、それを活かして何か出来ないか考えた時、幸いにも自宅から近い距離に、父が所有する山林があったので、そこを楽しんでいくつもりで、そこを場所にすることを思いつきました。

まず川のほとりに小さな山小屋をつくり、場所の名前を「ゆとりの森」に決め、そこを拠点にピザ窯やお好み焼き台、かまどなども増やしていききました。長い年月の中では、整備作業が思うように進まないことや、自然災害に遭うなど大変なことも多くありましたが、妻や知人等の協力も得ながら、更に茅葺き屋根の水車小屋や、露天の五右衛門風呂もつくること



ゆとりの森

また、孫も遊ぶようになってからは、ブランコや山林散策できる遊歩道、ミニグラウンドゴルフ場等も整備し、大人だけでなく子どもも楽しんだりくつろいだり出来る場所となりました。そして、自然の中の生き物

にも楽しみながら触れ合えるように、ヤマメのつかみ取りを体験できる池もつくり、今では子ども会や地域の行事でも活用されることがあります。

最初は、自分が没頭し楽しめる場所づくりとして里山整備を始めましたが、長い間進めていくうちに、沢山の人が楽しんだりくつろいだり出来るゆとりの空間になっていました。それを感じる時、自己満足ですが、「ゆとりの森をつくって良かったな。」と思います。



カープ観戦について

八重西支部 下西三江子

友達に誘われて、4月23日に広島へカープ対中日を見に行きました。農協のカープ観戦ツアーなので、道の駅から車に乗り、連れて行ってもらいました。雨が降り出しましたが、大きな赤いカッパを着て、一生懸命応援しました。

延長になるかと思ったけど、9回の裏に点が入り、延長にならず勝つことが出来て、最高に嬉しかったです。バスの中もみんなニコニコ顔で帰ることができました。三次の人もおられました。

選手の皆さん、けがをせず、私達に元気を与えて下さい。

カープも町政も応援しています。

カープと私

八重東支部 辰川 邦子

今年もカープの試合が始まって、はや中盤となった。試合のある日は、毎日待ち遠しい。交流戦はなかなか勝てない。ここで1点と……気をもんで見ている。

TVの放送が終わるとラジオに切り替え、決着がつくまで聞いている。勝った時の気持ちはなんとすがすがしいことか。まだまだ残り試合が待っている。ワクワク

感はまだ続く。昨年の様に8回9回で逆転をして、しつかり盛り上げてほしい。

選手の皆さん、北広島町からみんな応援していますよ。がんばって!! カーチ力チ。

みのひろし後援会活動
頑張りましたよ!

飛鳥大仏の拝観

後援会幹事長 高田 順郎

私の趣味の一つに、古寺・仏像巡りがある。

現地を訪れる際は、造立された時代と背景の歴史を予習していくことにしている。

仏像だけを通じての狭い視野ではあるが、歴史上の知識が無限に広がると、奈良・京都を中心に探訪している。一年に一回の出会いで夜も楽しい。

では、日本で仏像が作られるようになったのはいつごろであろうか、最初当然のこと疑問がわいた。仏像関係の本を読んでいくうちに、仏教の起源・釈迦の誕生・修行・悟り、この教えがインド・中国・朝鮮を経由して、千年の月日を経て、日本に渡来したことを知った。当時の欽明天皇(552年)は、朝鮮百済の聖明王より献上された

金銅の釈迦像を見て仰天したらしい「西の隣の奉られる仏のお顔きらきらし敬うべきや否や」と近臣に問うたと言う。

日本国の自然崇拜に対し、異教としての偶像崇拜は、相容することとは出来ない。神道派の物部氏と仏教派の蘇我氏の争いが10年間続いた。

公伝の仏教伝来は、552年であるが、それ以前にごく限られた渡来工人の作った小さな仏像を自宅に安置して礼拝していた。仏教が日本に定着した崇峻天皇の元年(558年)に、日本最初の本格的な寺院が飛鳥の里に造営された。

(奈良県明日香村)蘇我の氏寺法興寺である。現在の寺名は飛鳥寺で、6世紀末の創建となれば、仏像も当然のこと最古仏である。

胸躍らせながら友人と共に訪ねた。建物はさすがに寺跡のみであるが、法興寺の小寺院として建立された安居院があり、板の間は僅か10畳ぐらいだったと思うが、1mぐらいの高さの須弥壇に、像高2・75mの釈迦如来坐像が目と脳天にズーンと飛び込んできた。

凄じい迫力である。古保利の薬師如来のふくよかで優しい顔ではない。肥満体でもない。渡来人鞍作鳥作止利(仏師の造像で、祖父司馬達等

の時代に中国から渡来した日本最初の飛鳥時代を代表する仏師である。表情は一種独特で神秘的で威厳があり、近寄りがたい感じがした。写実的で優しい白鷺時代(8世紀ごろ)以降の仏像を拝顔すると、特に思い出す。

この大仏は、度重なる火災で、補修による満身創痍が余計に何かを感じたのかもしれない。止利仏師様式の特徴は中国北魏時代の流れを汲んでいると説明をしている。法隆寺金堂の釈迦如来像も止利仏師の作であることを付け加える。

飛鳥大仏2・75mの鑄造から2百年後につくられた銅像で、水銀中毒と負傷者の続出した奈良の大仏(像高16mの鑄造)がある。これも総監督は渡来人の國中連公麻呂である。奈良大仏の開眼導師はインド人僧侶が担当した。これも非常に興味深い。

最後に
みのひろし後援会の一致団結を祈念して雑文を終わりたい。



奈良・飛鳥寺